



電気通信大学創立100周年記念事業

# ピアノコンサート

2018/11/9 (金)

16:30 (16:00 開場)

電気通信大学 講堂



国立大学法人  
電気通信大学  
Unique & Exciting Campus



# ご挨拶



電気通信大学ピアノコンサートによるこそいらっしやいました。今年度創立100周年を迎えた本学は、電気通信大学生生活協同組合より、創立100周年の記念として、グランドピアノ2台（講堂及びB棟201教室へ設置）を、電気通信大学(UEC)基金を通じてご寄贈いただきました。これを受け、この度お披露目のコンサートを企画いたしました。短い時間ではございますが、ピアノソロ、ピアノ連弾、チェロとピアノによる二重奏の演奏をお楽しみください。



## プログラム



(🎵演奏者による曲の聴き所解説付き)

開会挨拶 電気通信大学長 福田 喬

### ピアノコンサート

I 稲田 理沙 ピアノ独奏

C.ドビュッシー作曲／映像第1集より 水の反映

🎵 普段メロディーになりにくいラ♭ ファ ミ♭という音がこの曲では重要なテーマになっています。水面に像が揺れる様子をこの3音で表現していけたらと思います。

II 劉 承澤 ピアノ独奏

F.ショパン作曲／夜想曲 op.9-2

🎵 ショパンが1831年に作曲した夜想曲。献呈はベルリオーズの元婚約者で、マリーに対し行われました。終始右手は装飾音で飾られた旋律を歌い、左手は同じリズムの旋律が繰り返されます。

III 若林 拓弥・山下 舜人 ピアノ連弾

斎藤圭土（レ・フレール）作曲／「空へ」

🎵 レ・フレールは日本を越え海外でも人気の連弾デュオ。重厚で熱いサウンドをお楽しみください。そして調布祭3日目（11/25（日））には、講堂で連弾コンサートを行います。ぜひご来場いただけたら幸いです。

IV 渡邊 聡(チェロ)・中村 淳(ピアノ) 二重奏

S.ラフマニノフ作曲／チェロソナタ op.19より第1、3、4楽章


🎵 ラフマニノフの最も有名な曲の一つである、ピアノ協奏曲第二番とほぼ同時期に作曲されたものです。ピアノの名手であるラフマニノフらしく、ピアノは単なる伴奏ではなく、チェロと対等、あるいは対等以上の役割を与えられています。本日は時間の都合で、第一、三、四楽章を演奏します。第一、第四楽章はピアノコンチェルトのような音の彩りの変化、緩楽章である第三楽章は、チェロの美しいメロディーの息づかいが聴きどころです。全編にちりばめられた美しいメロディー、チェロとピアノの掛け合いの面白さ、テクニックの応酬をお楽しみください。



## V 浅野 未麗・饗庭 絵里子 ピアノ連弾

### C.ドビュッシー作曲／ベルガマスク組曲より 第3曲月の光

(大宝博編曲ピアノ連弾版)

 詩人ポール・ヴェルレーヌ(1844-1896)の同名の詩へのオマージュ作品。ドビュッシーは最初にこの詩に音楽をつける形で歌曲を作曲し、恋人ヴァニエ夫人に捧げました。その8年後、言葉なしにピアノだけで詩の世界を描いたものがこのピアノ曲「月の光」。ドビュッシーにインスピレーションを与えたヴェルレーヌの詩には、幸せそうに仮面をかぶる人々が、仮面の下では実は痛みや疑いを抱いているような、人間の心の二面性が陰影深く描写されています。

今年は、ちょうどドビュッシー没後100年にあたる記念の年でもあります。ピアノソロバージョンとは一味違う、4手による光と影の表情をお聴き下さい。


### S.ラフマニノフ作曲／ヴォカリーズ (G.アンダーソン編曲ピアノ連弾版)

 原曲はソプラノまたはテノールのための「14の歌曲集 作品34」の終曲。ラフマニノフの80曲を超える歌曲の中で唯一歌詞を伴わず、終始「アー」等母音のみで歌われます。

19世紀末、芸術分野では目に見えないもの、精神的なものを表現しようとする象徴主義が広がり始めており、「ヴォカリーズ」も歌詞の意味にとらわれない表現を求められた流れで作曲されたといえます。

電通大創立の頃に作曲され、作曲者自身が様々な編曲を残しています。世界中に多くのアレンジが存在しますが、本日は鍵盤上で2人の手を複雑に交差させる、弾きごたえのあるバージョンを敢えて選びました。指や肘をぶつけ合いながらのリハーサルを経て学生時代のピアノデュオが嬉しく復活。秋の郷愁に寄り添う名曲をお楽しみ下さい。

### F.リスト作編曲／交響詩第6番 マゼッパ S.100 (ピアノ連弾版)

 マゼッパとは、ロシア帝国の支配に対するウクライナ・コサック最後の反乱を起こした人物イヴァーン・マゼーパ(1639-1709)のことで、伝説となった英雄マゼーパの戦いから着想を得たヴィクトル・ユーゴー(1802~1885)の叙事詩「マゼッパ」に感銘を受けて作曲されました。

リストは、この交響詩を元に「超絶技巧練習曲 Transcendental Etudes」のピアノソロ作品の「マゼッパ」も作曲していますが、このタイトルには、単に「ものすごく難しい練習曲」というよりは「肉体の超越」「魂の超越」といった意味が置かれており、表題音楽を志向したリストならではの詩的イメージが受けとられます。曲は冒頭から馬の蹄の音を思わせるリズムがあらわれ、英雄マゼーパが馬にまたがり、軍を率いて凛々しく登場する姿を思わせます。伝説によると長年にわたる戦いののち、最後はロシア軍にやぶれ悲劇に終わるのですが、マゼーパ自身は壊滅した状況からなんとか逃げ切ったといわれています。その不屈の精神、尋常ならざるテンションが曲中にこれでもかと言わんばかりにあらわれます。ヴィルトゥオーゾかつ輝かしい難曲をリスト自身による四手への編曲でお聴き下さい！



# 演奏者プロフィール



## 浅野 未麗（ピアニスト）



京都市立芸術大学音楽学部卒業後、同大学大学院を修了。公益財団法人ロームミュージックファンデーションの奨学生として、ドイツ国立ミュンヘン音楽・演劇大学大学院を修了。ドイツ、オーストリア各地でソロリサイタルなど多くのコンサートに出演の他、国際声楽コンクール公式伴奏者をはじめ、音楽祭やオペラプロジェクトでコレペティートルとしての経験を積む等、多彩な演奏活動を行っている。リートデュオをはじめ様々なコンサートのアンサンブルピアニストとして精力的に演奏すると共に、講師として後進の指導にもあたっている。日本ドイツリート協会会員。

## 渡邊 聡（東京大学大学院工学系研究科教授）

東京大学大学院修了後、日本学術振興会、新技術事業団（現 科学技術振興機構）、日立製作所基礎研究所を経て現職。専門は計算物理学手法による各種マテリアルのナノスケールでの振舞いの研究。

チェロを奈切敏郎氏に師事。また高橋忠男氏、柏木真樹氏、ギョルギー・ボグナー氏らのレッスンを受ける。東京大学音楽部管弦楽団を卒団後、現在に至るまで東京アマデウス管弦楽団に所属してオーケストラ活動を続けている。

## 中村 淳（電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）

早稲田大学、日本学術振興会、理化学研究所、東京大学物性研究所等を経て現職。専門は計算物理学・計算化学を駆使したナノスケールサイエンスの探求。

ピアノを高山美智子、声楽を宮本修各氏に師事。指揮者（元東京芸大、東京混声合唱団正指揮者）の八尋和美先生に指揮法の手ほどきを受ける。小林研一郎氏指揮のマーラー交響曲第三番の合唱指揮も務めた。

## 饗庭 絵里子（電気通信大学大学院情報理工学研究科准教授）

京都市立芸術大学器楽科（ピアノ）卒業、同大学大学院修了。博士（音楽学）。関西学院大学、日本学術振興会、産業技術総合研究所を経て現職。専門は聴覚心理学や Performance Science と呼ばれる学際領域であり、音や音楽に関わる人間の知覚や認知を探求している。

ピアノを馬場洋子、エルンスト・ザイラー、阿部裕之、井出悟の各氏に師事。受賞は滋賀県新人演奏会ピアノ部門優秀賞、全部門最優秀新人賞および県文化奨励賞受賞など。ソリストとしてオーケストラとの共演経験もある。現在は、アンサンブルを中心に活動を行っている。

## 電気通信大学学生サークル ピアノの会（稲田 理沙 / 劉 承澤 / 若林 拓弥 / 山下 舜人）

電気通信大学ピアノの会は、音楽を楽しむことができ、ピアノの技術向上やピアノを通じて親睦を深めることを目的としたインカレサークルです。ピアノの会では、年に2回定期演奏会を行っている他、他大学と年に1回、合同演奏会を行ったり、ボランティアとして高齢者施設で演奏を行ったりしています。ピアノが新しくなり、今まで以上に気合の入った私たちの演奏を是非お楽しみ下さい。